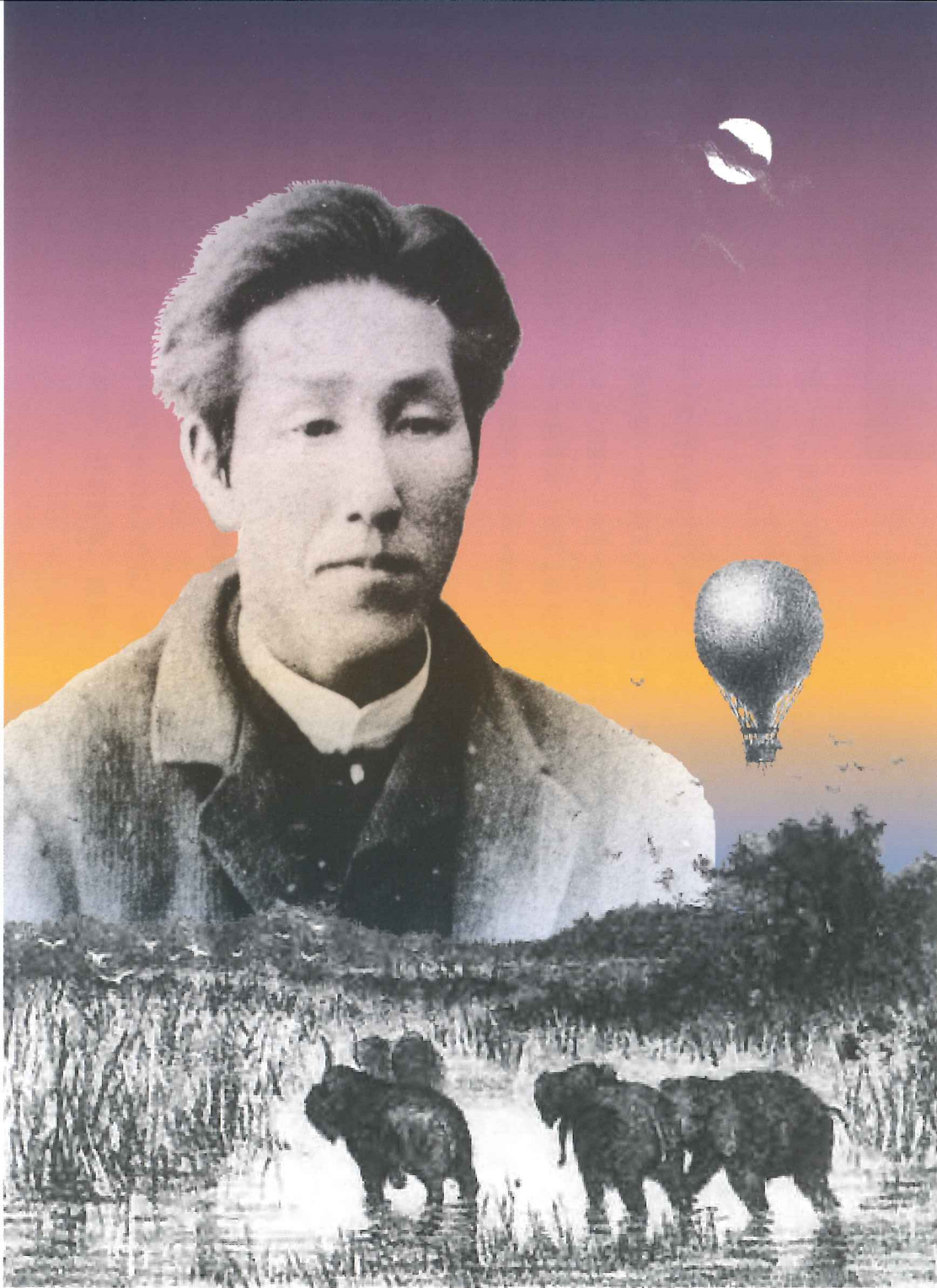


文学特別展

明治の  
翻訳家

# 井上勤の 西洋奇談



2020年

2021年

12月12日(土) ~ 2月11日(木・祝)

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 月曜日(ただし1月11日は開館、翌日休館) 年末年始(12月28日~1月4日)

会場 1階 特別展示室 3階 収蔵展示室

観覧料 一般 520円 高校・大学生 360円 小・中学生 260円  
(410) (290) (200)

( )内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日・冬休み期間中は無料。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催 徳島県立文学書道館

後援 四国放送 徳島新聞社 NHK 徳島放送局



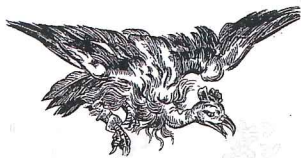
言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1  
ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>

tel. 088-625-7485 fax. 088-625-7540  
e-mail [kotonoha@bungakushodo.jp](mailto:kotonoha@bungakushodo.jp)





今日でも広く愛される名作の数々を、日本の翻訳黎明期にいち早く手掛けた井上勤。その生涯と業績を一望します。

このような時期に勤は『良政府談』（トマス・モア「ユートピア」）、ジュール・ヴェルヌ『月世界旅行』『八十日間世界一周』『海底紀行』などを次々に訳して発表。ほかにも「ヴェニス商人」を『人肉質入裁判』として、『アラビアン・ナイト』を『全世界一大奇書』として訳出し、その奇技で、清新で、読みやすい翻訳の物語に、多くの読者が夢中になりました。

明治の翻訳文学は、黒岩涙香、森田思軒、森鷗外、二葉亭四迷、坪内逍遙らによって確立されましたが、そこへ至る流れを作ったのは、嘉永3（1850）年、徳島に生まれた井上勤でした。

開国より維新を経た日本は、新旧の価値観を衝突させながらも、西洋の思想や文化を急速に取り入れようとしていました。身分の差別なく、自身の努力と才能によって自由に世の中で活躍でき、科学技術の発達によって無限の可能性を追求できる新しい未知の世界に、人々は胸を高鳴らせたのです。



徳島 井上勤

### 関連イベント

- ①対談 小谷野敦（作家、比較文学者）  
× 杉田英明（東京大学教授）

12月19日（土）14:00～15:30  
1階 ギャラリー（先着 100人）

鋭い切り口で文学全般を論じる小谷野氏と『アラビアン・ナイトと日本人』（岩波書店、2012年）で井上勤の業績を詳細に解き明かした杉田氏が、勤の面白さを語ります。

### ②朗読会「アラビアン・ナイト」

1月24日（日）14:00～15:00  
1階 ギャラリー（先着 100人）

朗読／松平定知（京都芸術大学教授、元NHKアナウンサー）  
ウード演奏／常味裕司  
ダルブッカ演奏／立岩潤三

ウードの繊細な音色とダルブッカの軽快なリズムに乗せて、いにしえの中東世界を鮮やかに描き出します。

### コラボ企画

#### ここのはロビーコンサート 第5回

1月31日（日）14:00～15:00  
1階 ロビー（先着 80人）

青山唯（ハーブ）、木村絵理（フルート）、米田佳子（ピアノ）が、リムスキー＝コルサコフ「シェヘラザード」などアラビアン・ナイトの音楽を演奏します。

資料保護のため、勤の翻訳書『女権真論』『関税論』『龍動鬼談』の実物は1月11日までの展示とし、これ以降は写真による展示を行います。



イベントはいずれも申し込みが必要です。はがき・Fax・メールのいずれかに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号とイベント名をご記入の上、お申し込み下さい。当館1階受付でも申し込みます。

### 交通アクセス（JR徳島駅から）

- ◇徒歩約15分  
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つめの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- ◇バス  
[徳島市営バス] 7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗り、「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。  
[徳島バス] 2番乗り場「前川経由」に乗り、「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- ◇タクシー・自動車 約5分  
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を渡り、4つめの信号を右折して約300m。
- ◇駐車場  
当館北側にあります（43台・大型バス2台）。

